

リスク管理

リスクは、起こるからこらなにか分からない状態のことである。このことは自明のことのように思われるが、現実には自らにとって悪い結果がほぼ確実に予想されるときにだけ、リスクマネジメントの必要性を持ち出してくる企業経営者や、不確実な出来事を、ほとんど考慮しない組織も少なくない。リスクというものを正しく理解することが、リスクマネジメントの第一歩となる。

◇ さて、改めて、リスクとは何か？を考えてみよう。

JIS規格「リスクマネジメントシステム構築のための指針」 JIS

Q 2001では「事

態の確からしき」とその結果を定義されている。

つまり、リスクとは、あ

リスクマネジメント

ABC

総論②

リスクに関する格言

- ・リスクは、リスクとして認識されて初めてリスクとなる
- ・リスクを無視しても、リスクは無くならない
- ・悲観的に準備し、楽観的に実行せよ！それがリスクマネジメントだ！
- ・社会はリスクに満ち溢れている。でもそれを生み出したのはあなただ！そうして、それを乗り越えるのもあなただ！
- ・あなたの前に見えるのはリスクです。でもあなたの後ろに見えるのはリスクではありません。単なるあなたの足跡です

る事態（通常は、望ましくない出来事）の起こる可能性とそのような事態が実際に起きたときの結果（被害）の大きさを表すこととしている。リスクをこのように定義することにより、リスクの大小（被害）の大きさを表すこととしている。リスクをこのように定義することにより、リスクの大小（被害）の大きさを表すこととしている。

①リスクが高くなる（大きくなる）というところとある好ましくない事態の起きる可能性が高まるか、あるいはその好ましくない結果（被害）がより重大になると予想されること。

②リスクを軽減させるということ「好ましくない事態の起きる可能性を低くするか、その発生によってもたらされる結果（被害）を想定より低くさせること。」

ところで、このようなリスクには、忘れてはならないいくつかの特徴がある。それは、①リスクの大きさ・重大さは、その結果の受け手によって変化する②リスクは、時間の経過、環境の変化に伴い変化していく、ということである。

前者は、同じ不幸な出来事に遭遇し、同じ程度の被害（例えば金銭的被害）を受けたとしても、その受け手の経済状態や立場等によってその重大度は異なり、それに対する対応方法も異なってくる、ということである。従って、「誰にとつての被害か？」という視点でリスクを考える場合、非常に重要となる。後者は時間の経過や取り巻く状況の変化とともに事態の発生する可能性も変化するし、被害の大きさも、重大度も、そのときの環境により不確実であるということである。

このようなリスクの特徴があるがゆえに結局は、リスクは自らが自らの立場で適切に認識し対処しなければならぬということになり、誰にでも共通で万能なリスクマネジメントマニュアルはないということである。

（日本総合研究所）

「正しく理解」が第一歩